

H-1BのCAPシーズンにおける10のヒント

Suzanne K. Sukkar 著

はじめに

来る3月に熱狂的なシーズンがやって来ます！といっても、バスケットボールの話ではありません。待ちに待った2024年度のH-1BプログラムのCAP（抽選）のシーズンです。多くの方がNCAAのバスケットボールの対戦表を大胆に予想する一方で、人事担当者は当選または落選した従業員を確認することになるでしょう。今年のH-1BプログラムのCAPは、新たなH-1B登録システムが採用されてから4年目となりますので、サプライズだらけといった状況にはならないでしょう。しかし、従業員も雇用主も「3月の熱狂」のシンデレラストーリーを期待しているはずですよ。

H-1Bプログラムとは、米国での学士号取得を必要とする「専門職」に就く外国人を、雇用主が一時的に雇用するための制度です。この制度の対象となる専門職は、科学、技術、工学、数学といった分野（STEM）から、ビジネス、マーケティング、会計等の様々な分野に及びます。一般的に、雇用主は3年単位で最長6年間の就労許可を申請できますが、一部例外もあります。

毎年3月、米国移民局（USCIS）は最低14日間のH-1B登録期間を設定し、憧れのH-1Bビザ番号の取得に挑戦できる機会を提供しています。2024年度のH-1Bビザ登録申請期間は、2023年3月1日正午から3月17日正午（いずれも米国東部時間）までとなっています。雇用主が従業員に代わってH-1B登録申請を行うことができるのは、この期間に限られます。1990年にH-1Bビザが創設されて以来、米国議会は各年度のビザ発給数を制限してきました（H-1B Cap）。現在の年間上限数は6万5000人分となっていますが、米国の高等教育機関で修士号または博士号を取得した外国人に対しては、更に2万人分のビザが割り当てられています。

H-1B Capシーズンに向けて確認すべき10のヒント

- 1) まず、米国議会によるビザ発給上限数の引き上げがない限り、当選確率がかなり低いということを念頭に置く必要があります。もし、H-1Bの申請を検討している従業員が、F-1ビザのOPT（STEM）の対象者である場合には、H-1Bの登録申請を1年遅らせることを検討してもよいでしょう。というのも、スポンサーシップ無しに最長3年間、勤務することができるからです。また、雇用主は、従業員に当選機会を複数回与えることができるよう、できるだけ早く抽選に参加するかを検討する必要があります。

- 2) 雇用主1人当たりのH-1Bプログラム登録申請については、上限数は設けられていません。ただ、1人の従業員に対して複数の登録申請をすることはできません。
- 3) H-1Bプログラムの登録申請は、USCISの登録用ウェブサイトから指定された登録期間中に限り行うことができます。初めて申請する場合には、USCISの登録用サイトで雇用主のアカウントを作成する必要があります。アカウントを作成できる期間については、USCISから別途発表されます。システム上の遅延やクラッシュ等为了避免するためにも、アカウント作成はできる限り早く行った方が良いでしょう。
- 4) USCIS登録用ウェブサイトアクセスしにくい場合には、アカウントにログインする前に別のブラウザを試すか、Cookieをクリアまたは削除してください。過去にはGoogleとSafariのブラウザで問題が発生したとの報告が確認されています。なお、Firefoxの信頼性が高い傾向にあります。
- 5) 登録申請期間の最終日まで待たないでください。繰り返しになりますが、申請期限前にウェブサイトが不安定になったり、クラッシュする可能性もあります。
- 6) H-1Bプログラムに登録申請し当選した場合、その権利を譲渡することはできません。実際にH-1Bの登録申請書を提出した雇用主によってのみその先の手続きを進めることができます。
- 7) 有効なH-1Bのスポンサーシップの要件として、①専門性のある職務に関するジョブオファーがあること、②その職務または類似の職務に就くアメリカ人従業員を雇う際には学士号以上の学位習得が必要最低限の条件となっていることが求められます。もっとも、214.2(h)(4)(ii)に基づく実務経験評価による代替オプションもあります。
- 8) 勤務地における平均的な賃金（同様のポジションが基準となります）を支払うための十分な資力を有する合法的な雇用主であることが求められます。テレワークの場合も考えられますが、在宅勤務の場合であっても、平均賃金が高い大都市から勤務をする場合には、その高い賃金を支払う資力があるかを問われることとなります。
- 9) 夏頃にOPTによる就労許可が切れるF-1ビザの学生がH-1Bに当選した場合は、10月1日まで自動的に就労許可が延長されます（Cap Gap Work authorization）。もっとも、F-1ビザに基づくOPT就労許可の期限が切れる前にUSCISに請願書が提出され、かつ受理されたH-1Bの申請のみが対象となります。
- 10) I-9コンプライアンスの観点から、上記の学生の就労許可延長は、H-1Bの手続が保留中であっても、9月30日に終了します。

どの従業員のためにH-1B Capの登録申請をすべきか？

H-1B capの登録申請は、通常は初めてH-1Bを申請する労働者が対象となります。以前にH-1BCapに当選したH-1B労働者は含まれません。以下に該当する労働者は、H-1Bステータスに移行する（Cap抽選のために登録する）ことで恩恵を受けることができる可能性があります。

- ・F-1 OPTの就労許可を有する者。毎年H-1B Cap抽選の対象となる最も一般的な労働者のカテゴリーです。大学または大学院の新卒者が典型例です。

- ・H-1B capの対象外の労働者。仮にH-1B Capの対象外の労働者であっても、雇用主がH-1B Capの対象会社となってしまう場合には、H-1Bの抽選のために登録申請をする必要があります。

- ・TN（カナダ/メキシコ専門職、E-1/E-2、O-1ビザ、H-1B1ビザ（チリ人、シンガポール人）の保有者。これらのビザについてはDual Intentとはみなされません（永住の意思と非永住の意思が両立しないビザ。すなわち。これらのビザの保有者は、駐在期間が終わったら本国へ戻る意思を有しているとみなされます）。したがって、これらのビザを保有する労働者に対してグリーンカード申請のスポンサーシップを検討している場合には、H-1BCapの抽選に登録することを検討した方が良いでしょう。

- ・L-1Bビザ保有者。もし、5年間の最長滞在可能期間が迫っている場合には、H-1Bビザへの変更によって恩恵を受けることができます（H-1Bビザは最長6年間滞在可能）

- ・H-4/L-2労働者。H-1BまたはL-1ビザ保有者の配偶者は、H-1Bステータスへ移行することによって恩恵が受けられるかもしれません。H-1BまたはL-1ビザを持っている本人の最長滞在可能期間が迫っている場合や解雇等の危機にさらされている場合であっても、H-1Bを取得することで、H-1B/L-1を保有する本人の雇用主の意向に左右されることがなくなります。

- ・一時的な就労許可を有するインドまたは中国国籍を有する非移民労働者で、永住権の取得を希望している者。インド、中国国籍の方に発給されるビザの発給手続が現在滞っているため、H-1Bステータスに移行した後もビザの取得に至らない場合には、6年間を超えた滞在延長を申請できます。

H-1B 抽選、当選に関するプロセス

雇用主が労働者に代わってH-1B登録申請書を提出した場合、登録申請期間が終了するとUSCISによる抽選手続が開始されます。USCISはビザ発給数の上限（6万5000人）を満たすために必要な数の登録者を選出します。USCISはコンピューターによって無作為に当選者を決定します。惜しくも抽選に外れてしまっても、登録者が上級学位（修士号または博士号）を有する場合には、別の抽選にかけられます（別途設けられた2万人枠に関する抽選）。

85000人へのビザ発給は、熟練した知識やスキルを持つ外国人を雇用するには便利なものですが、十分なものとまでは言えない状況です。毎年、登録申請者数がビザ発給上限数をはるかに上回っています。2020年に導入された新制度によって登録申請が簡素化されたことも、登録申請数の増加の一因となっています。過去3年間に提出されたH-1Bビザの登録数は以下の通りです。

2023年度：483,927件
2022年度：308,613件
2021年度：275,000件（概算）

なお、2020年度に新登録制度が導入される前の2020年度については、2019年4月1日から5日までの申請期間において、201,011件もの登録申請が受理されています。登録申請数は2019年から2倍以上となっており、当選確率は約17.5%となっています。

H-1Bの登録申請者数の着実な増加は、USCISの登録料が1人あたり10ドルと安価であること、雇用主が登録申請できるウェブ上の手続が合理化されていること（一度の登録で最大250人分の申請が可能）などに起因します。また、新たな登録制度が導入されてから4年目を迎え、雇用主が登録申請手続に慣れてきたこともあり、労働者が自分に代わってH-1B登録を申請してくれる雇用主を見つけることが容易になったという事情もあるかもしれません。もちろん、現在も、経済的な懸念や継続的なレイオフがあることから、登録申請数の増加に関する懸念が緩和されることがあるかもしれません。また、手数料を引き上げる規則案もあることから、今後の情勢が変わる可能性もあります。

登録期間の終了後、雇用主は3月31日までに当選者の通知を受け取ります。H-1Bに基づく雇用開始日は10月1日からとなり、また、4月1日から当選者に関する請願書提出を行うことが可能です。当選した場合に90日以内にこの申請をすることが求められません。この期間内に申請しなかった場合には、別途の機会が設けられない限り、再度H-1Bの抽選に登録しなければなりません（昨年度は別途の抽選機会は設けられませんでした）。

2024年度のH-1B申請を検討される場合には、なるべく早く開始することをお勧めします。弊所移民チームは、目的達成のための最適な選択肢を検討するためのお手伝いをすることが可能です。

今年のH-1B登録者の幸運をお祈りします！



Suzanne K. Sukkar はディキンソンライト法律事務所 アナーバーオフィスのメンバーです。
電話番号：734.623.1694
メールアドレス：ssukkar@dickinsonwright.com

10 HOT TIPS FOR EMPLOYERS TO CONSIDER THIS H-1B CAP SEASON

by [Suzanne K. Sukkar](#)

Introduction

March Madness is around the corner, and we are not talking about basketball! For the immigration aficionado, the much-anticipated annual H-1B cap season for Fiscal Year (FY) 2024 is gearing up to start. While many will make bold predictions for their NCAA basketball brackets, HR professionals will have a bracket of their own, tracking employees selected or eliminated by the lottery. This year's H-1B cap season should not be full of surprises as we are going into the fourth year of the "new" H-1B registration system. Still, employers and employees alike will be on the lookout for a March Madness Cinderella story.

For those less familiar with the H-1B program, it allows employers to temporarily hire foreign nationals in "specialty occupations" that require a minimum of the U.S. equivalent of a bachelor's degree for entry into the position, with limited exceptions. The professional occupations that qualify for sponsorship stretch across multiple disciplines ranging from the Sciences, Technology, Engineering, and Mathematics (STEM) fields to Business, Marketing, and Accounting. Generally, an employer may request up to six years of work authorization in three-year increments, with some exceptions.

In March of each year, United States Citizenship and Immigration Services (USCIS) opens up the annual H-1B registration period for a minimum of 14 calendar days to try for a coveted H-1B visa number. The USCIS has announced that the registration period for FY2024 H-1B cap will open at noon (ET) on March 1st and run through noon (ET) on March 17th, 2023. This short window will be the only opportunity for an employer to submit an H-1B registration application on behalf of an employee. Since the H-1B visa program's creation in [1990](#), Congress has limited the number of visas available each fiscal year. The current annual statutory cap is 65,000 visas, with an additional 20,000 visas allocated for foreign nationals who earned a master's or doctorate from a U.S. institution of higher learning.

10 Hot Tips for Employers to Review This H-1B Cap Season:

- 1) Employers should be prepared for another abysmal lottery selection rate in the absence of Congress increasing the statutory cap on H-1B visas. If an employer is considering delaying submitting an H-1B registration application for another year for their F-1 OPT STEM eligible employee, since they can be work authorized for up to three years without sponsorship, then reconsider! Employers should evaluate entering an employee into the lottery as soon as possible to give them multiple opportunities for selection.
- 2) There is no limit on the number of registration applications that can be submitted by a single employer. However, employers can only submit one registration application per employee.
- 3) H-1B registration applications can only be filed online through the USCIS registration website, and only during the designated registration period. First-time users must create an employer account on the USCIS registration website. The USCIS will announce when employers may create this account. Employers should create their account as soon as possible to avoid system delays or crashes.
- 4) If an employer has difficulty accessing the USCIS registration website, they should try a different browser, or clear/delete cookies before logging into their account. There has been past reports of users having difficulty with Google and Safari browsers. Firefox tends to be more reliable.
- 5) Do not wait until the last day to submit a registration application! Again, it is possible for the website to become unstable and crash before the filing deadline.
- 6) H-1B registration selections are non-transferable. The registration can only be used by the employer who submitted the H-1B registration application for the selected employee.
- 7) Viable H-1B sponsorship requires a job offer in a "Specialty Occupation," where a Bachelor's degree or higher is the normal minimum hiring requirement for all U.S. workers filling similar roles in the industry, and your employee has that specific education. Also, there are alternate options under 214.2(h)(4)(ii), including candidates that may qualify based on work experience evaluations.
- 8) You must be a legitimate employer with sufficient funds to support a salary that satisfies prevailing wage requirements for that particular type of work in the city where it will be performed. Telecommuting is an option. However, be forewarned if the employee will work from home, particularly in big cities where the prevailing wage rate may be higher, employers will be obligated to pay the higher prevailing wage rate.
- 9) Certain F-1 Students with "OPT" work authorization expirations during the summer may be eligible for an automatic "cap gap" extension of their work authorization through October 1st. This rule only applies to H-1B petitions filed and accepted by USCIS for processing before the F-1 Student's OPT work authorization expires.
- 10) For I-9 compliance tracking, "[cap gap](#)" [work authorization](#) for OPT Students ends on September 30th, even if your H-1B petition for that employee is still pending with USCIS.

Whom should employers consider for the H-1B Cap?

H-1B cap-subject petitions are generally filed for first-time or new H-1B workers. It does not include any H-1B workers previously selected in the H-1B cap lottery. Here is a list of candidates that may benefit from transitioning into H-1B status:

- F-1 OPT work authorized workers. This is the most common cohort of workers included in the annual H-1B cap lottery, which typically consists of recent college and university graduates.
- H-1B cap-exempt workers. Suppose an employer has identified a candidate who is currently an H-1B worker who qualified for H-1B status based on a cap-exemption, and the employer is a for-profit company that does not qualify for cap-exemption. In that case, the employer will need to enter this candidate into the H-1B lottery.
- TN Canadian/Mexican Professional, E-1/E-2 Treaty Trader/Investor, O-1 Extraordinary Ability, and H-1B1 Chilean/Singaporean workers. These visa categories are not considered “dual intent” visas. If an employer is considering permanent residency sponsorship for any of these workers, they may want to consider entering them into the H-1B cap lottery.
- L-1B Intracompany Specialized Knowledge workers. If an L-1B worker is approaching their five-year visa maximum, they may benefit from H-1B status since that has a six-year visa maximum.
- H-4/L-2 workers. An H-1B worker or L-1 Intracompany Transfer worker spouse may be an excellent candidate to transition to H-1B status for various reasons. The principal H-1B or L-1 worker could be reaching a visa maximum or at risk for a layoff/termination. By securing H-1B status for themselves, H-4/L-2 workers will have that independence, as their employment authorization would no longer be at the mercy of the principal’s employer.
- A nonimmigrant worker in any temporary employment authorized status born in India or China who is interested in pursuing permanent residency. There is a backlog in visa numbers available to foreign nationals born in India or China. With the AC21 rule, if they move into H-1B status, they can continue to seek H-1B extensions beyond the six years if a visa number is unavailable.

H-1B Lottery and Selection Process

Once an employer has identified all its candidates, submitted an H-1B registration application on their behalf, and the registration period has closed, the USCIS begins the selection process. USCIS selects a sufficient number of registrations in excess of the applicable cap each year based on its projections to achieve the required cap numbers. To accomplish the selection process, USCIS uses a computer-generated random selection process (commonly known as the “lottery”) to select a sufficient number of registrations to meet the 65,000 “regular cap.” The remaining registrations eligible for the H-1B advanced degree exemption and not selected under the regular cap are then placed into a separate lottery for random selection to meet the 20,000 “master’s cap.”

While 85,000 visas is a good start to help employers hire skilled foreign national professionals, it is not nearly enough. Year after year, the demand far exceeds the supply. With the streamlined registration process introduced in 2020, more employers are submitting registration applications on behalf of employees. Here are the number of registration applications filed in the last three years:

- In Fiscal Year 2023, employers submitted 483,927 registrations.
- In Fiscal Year 2022, employers submitted 308,613 registrations.
- In Fiscal Year 2021, employers submitted nearly 275,000 registrations.

By comparison, before the “registration” system was implemented, in FY 2020, USCIS received 201,011 filings during the April 1st to 5th 2019 cap-filing period. The number of registration applications has more than doubled since 2019, translating into a lottery selection rate of approximately 17.5%.

The steady increase in the number of H-1B registration application submissions has resulted from the nominal USCIS registration fee of \$10 per beneficiary and the streamlined web-based USCIS process to submit a registration application on behalf of multiple beneficiaries at one time (up to 250 beneficiaries can be included in a single registration). In addition, now that we are entering the fourth year of the registration system, there is an increased familiarity with the process, and employees may find multiple employers more easily willing to submit an H-1B registration application on their behalf. Of course, there are also economic concerns and ongoing layoffs that may mitigate this concern. There is also a [proposed rule to increase fees](#) which may change the landscape in the future.

Once the registration period ends, employers are notified of the lottery winners selected by the USCIS by no later than March 31st. The earliest date that an H-1B cap-subject petition can be filed on behalf of an employee is April 1st, for H-1B employment start date as early as October 1st. If selected in the lottery, an employer will only have 90 days to file the H-1B cap-subject petition. If an employer misses this opportunity, the employee is not considered to have been counted against the quota and must be entered into the lottery again unless a new selection period is announced – which did not happen last year.

We recommend starting your FY 2024 review of potential H-1B registration candidates now. Our [immigration team](#) is here to assist in making that assessment and reviewing the best options to achieve your objectives. Good luck to this year’s H-1B registrants!

ABOUT THE AUTHORS



Suzanne K. Sukkar is a Member in Dickinson Wright’s Ann Arbor office. She can be reached at 734.623.1694 or ssukkar@dickinsonwright.com.